

第2回 国際バルク戦略港湾検討委員会  
議事概要

日時：平成22年2月1日（月）15：00～17：30

場所：中央合同庁舎3号館 4階特別会議室

○前回の委員会で、今後、鉄鉱石・石炭・穀物のユーザーからのヒアリングを行うとされたことを受け、とうもろこし関係として飼料輸出入協議会、大豆関係として油糧輸出入協議会及び（社）日本植物油協会から、それぞれ穀物輸入の実態や、港湾行政への期待、要望等についてご意見を伺った。出席者からは、主に、以下のようなご意見があった。

- ・とうもろこし、大豆とも、輸送船舶の大型化が進んでいる。
- ・現在使用している船舶（パナマックス級）ですら、満載で入港できる港湾が少ないのが現状。港湾の整備による改善が必要。
- ・規制緩和等港湾サービスの改善等により、ユーザーにとって使いやすい港にすべき。

○各委員からは、以下のようなご意見があった。

- ・輸送コストのみならず、輸送からエンドユーザー、ひいては国民に至るまでのコスト全体を低減させるという観点が必要。
- ・今回の選択と集中の取り組みは、実現性を評価することが重要。応募にあたっては、ユーザーと港湾管理者がよく協議し、実現性の裏付けのある提案となるような工夫が必要。

○次回（第3回）は、平成22年2月18日（木）の17時半から開催予定。次回は、鉄鉱石及び石炭の輸入者である荷主企業から、直接ご意見を聞くことになった。

以上